

吉野川市立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 吉野 健太郎	委員 元木紀美子(校長)簡井紀臣(教頭)入交理子(人権教育主事・特別支援コーディネーター)吉野健太郎(1年主任)糸谷祐子(2年主任)山野井貴子(教務主任)高橋周(生徒指導主事)
-------------------------------------	---

元木 紀美子

①管理職・教職員による授業参観など学びの場の設置 ②授業後における生徒の振り返り ③「めあて」「振り返り」等の明確化

(1)知識・技能の習得

(2)思考力・判断力・表現力等の育成					
児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の見解をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○基本的な発言の仕方や、積極的に発言しようとする態度が身についている。 ●複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。 ●「より伝わる表現」を工夫する必要がある。	・各授業における課題等に対して話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において適切な言語活動により表現することができる。 ・自分の考えを自分の言葉で具体的にわかりやすく伝えることができる。	・ペアやグループでの学習を効果的に活用し、お互いの意見を伝え合う場面を設定する。 ・ICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・別の言葉に言いかえる、関連づける、そう考えた根拠と理由を引き出す発問を行う。		・「授業や行事などの発言の場面で、自分の考えがうまく伝わるようにしている」の肯定群が60%と昨年度よりも上昇するなど、自分の考えを表現することに対して、創意工夫が見られた。 ・「できるだけ本や新聞を読むようにしている」肯定群が33%であり、紙媒体からの情報を正しく読み取る機会が不足している。	・お互いの意見を的確に伝えることができるように、発表などの場面を多く設定する。個人のめあてを明確にし、達成レベルを上げていく。 ・学習課題を工夫し、子供たち自身で考え、表現したことを適切に評価し、授業改善に努める。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に対して集中して一生懸命取り組むことができ、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ○授業前の準備や課題の提出ができています。 ●分からないことを質問するなど学力向上に対する積極性が乏しい。 ●自分の考えを客観的に捉えたり不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題を解決できるよう計画を立て実践することができる。 ・苦手なことにも積極的に挑戦し続けることができる	・生徒同士が質問し合う機会を設け、教え合いができる場をつくる。 ・何を、なぜ、どのように学ぶかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・スモールステップでできていることを褒める。 ・振り返りの視点を生徒に示し記述させる。 ・自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。 ・テスト前などに、自分で計画を立てて実行できるようにするための手立てを考える。		・学校評価アンケートで、「学校に行くのは楽しい」肯定群が84%だったことや、「コンピュターやタブレットPCを使うのは勉強の役に立つ」肯定群が84%だったことから、タブレットPCを使用する機会が増え、学習意欲が高まったといえる。 ・生徒同士で質問し合う姿が見られ、主体的に学ぼうとする意識が高まっている。	・子供たち自身で見通しを立てて、実行できるようにするための手立てを考える。 ・振り返りを効果的にに行い、自身の成長を感じ、意欲的に取り組めるように授業計画を立てる。 ・生徒同士がお互いに質問し合い、教え合いながら考えを深め課題解決していく活動を行う。

[illegible]